



危険な夢洲 カジノのための万博は中止を!

メタンガス1日2トン発生、ガス爆発(3月28日)

万博会場の西側(夢洲1区)はメタンガスが常に噴出しているゴミ最終処分場。本来「立入禁止」ですが、万博の西側ゲート・イベント広場・駐車場・団体休憩所などを設置する計画です。3月28日に発生したガス爆発はこのトイレ工事現場で発生しました。

「避難計画」がない防災基本計画

万博協会が昨年12月26日に発表した防災基本計画(初版)には、リアルな災害想定が記されている一方、「避難計画」がありません。

会場の夢洲へのアクセスが橋とトンネルの二つしかない島だからです。

さらに「防災基本計画」には次の「災害被害予測」が記されています。

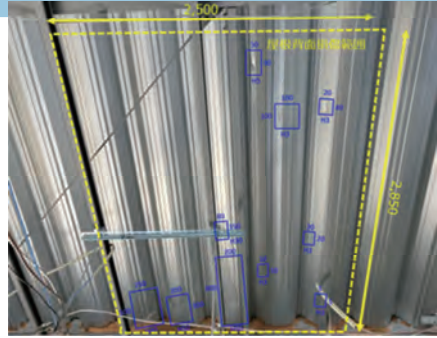
南海トラフ巨大地震 津波でトンネル水没の危険、橋を渡れても、その先の此花区は「広範囲に水没し、数日間水が引かない」と想定。10数万人が数日間孤立化します。

豪雨 万博会場の排水能力が60mm/hしかないのに「大阪市内では過去に90mm/h以上の豪雨を経験」「建物1階部分から浸水」「静けさの森の池が溢れる」。

熱中症 大阪府では「最も多い月では4,000人を越える人が救急搬送」、会場では「夏季イベント等で人が集まる空間では、熱中症の危険が高まる」。



爆発事故でトイレの天井に10箇所の凹み「床100㎡の損傷」との事故報告から2月後、爆発の激しさを物語っています。



5月22日に万博協会が公表

万博・大阪市民一人27,000円負担?!

「市民一人あたり約27,000円」の負担と市当局が議会答弁しました。しかし、これには夢洲や交通のインフラ整備費用は含まれず、本当の負担は**10万円**を越えます。



「身を切る改革」で貯めた市の貯金で赤字の穴埋を(橋下氏)

チケットの売行きが不調で、それが元手の万博運営費(1,160億円)の赤字が確実です。そんななか橋下徹氏が「身を切る改革で貯まった財政調整基金を充てたらよい」と発言、吉村知事も「そういう考え方もある」と応じます。維新の「身を切る改革」で市民サービスを削って基金を貯め込んだのは、万博・カジノに使うためだったのです。

カジノ万博を中止し、市民のために貯金を使おう!

カジノのための万博を中止して、今年度の万博関連経費1,343億円や財政調整基金2,471億円は市民の暮らし応援に振り向けましょう!



万博中止署名↑